

未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	島根大学 (神戸大学、兵庫医科大学) 計3大学		
テーマ	テーマB	申請区分	共同事業
事業名 (全角20字以内)	地方と都会の大学連携ライフイノベーション		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉
 高齢化先進県である島根県は深刻な医師不足が続いており、とくに津和野町など山口県や広島県に隣接する地区の住民は県外病院を受診し、また、中山間部の病院で勤務する医師の高齢化も問題視されつつある。さらに、地方での専門医取得には症例数の不足などが指摘されている。一方、兵庫県では、近未来の超高齢者社会におけるケアニーズである急性期医療から慢性期医療、療養、介護、在宅看取りまで切れ目のないケア(地域包括ケア)の提供において、ケアを提供する医療、介護、福祉などの施設の有機的な連携協力とともに地域包括ケアに適切に対応する医師(総合診療医)の育成について、十分ではない状況がある。

〈事業の概要〉(400字以内厳守)
 超高齢者社会の複雑化多様化したケアニーズに対応できる総合診療医育成のため、高齢化先進県の島根大学と近未来高齢化県の神戸大学、兵庫医科大学の3大学が連携して相互補完を図るとともに県市町村、関連医療機関・団体との連携による地域包括ケア人材育成体制を構築する。各大学の総合診療医育成コースに加え、①地域包括ケアに関する経営能力を備え、現場で多職種と連携して包括ケアを管理できる。②自ら地域包括ケアの課題を把握し、研究を遂行する。③地域住民の視点に立ち、グローバルリーダーとして活躍できる人材養成プログラム等を選択履修するコース等により、リサーチマインドを持った、地域包括ケアに貢献できる総合診療医を育成する。このため、島根大学は主導的地域包括ケア人材養成拠点、神戸大学はグローバルリーダー養成拠点、兵庫医科大学は都市型地域包括ケア人材養成拠点として、関連機関との間で地域包括ケアコンソーシアムを運営する。

②新規性・独創性

3大学は従来不可能と云われた大学間連携について、平成20年度「大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成」により可能にしたが、その構築された大学間連携を基盤に、高齢化先進県の島根大学では地方型地域包括ケアシステムおよび近未来高齢化県である兵庫県では都市型地域包括ケアシステムを構築・活用する。その際、円滑な運営を可能とするため、県市町村、医療機関、医師会や看護協会、介護・福祉団体との間でライフイノベーションコンソーシアムを設立し、大学が調整役を務め、将来的には日本版 IHN (Integrated Healthcare Network統合ヘルスケアネットワーク)としての機能を持たせる。また、これまで大学以外での研究遂行は不可能であるとの常識を覆し、地域包括ケアをフィールドとして、自ら課題を把握し研究を遂行できる能力を修得するコース(臨床研究人材養成)を整備する。例えば、島根県では国民健康保険の加入者が多く、中山間地区の住民は隣接する広島県や山口県などの病院を受診することも多い。これらの研究は今後の医療・介護保険制度に対するエビデンスとなりうるもので必須の研究である。しかも、現場での研究を支援するリサーチセンターを各大学に設置することも特徴である。また、これまで重要視されてこなかった地域基盤の医療及び包括ケアにおける経営とマネジメント能力の習得並びに指導者の養成(地域包括ケア人材養成、総合診療医指導者養成)、さらに、地域包括ケアには、住民からの視点が必要でこれを修得するコース(グローバルリーダー養成)を整備する。以上の取り組みはこれまでの医学部や大学院ではみられない事業である。

③達成目標・評価指標

本事業は大学連携・地域連携により、地域包括ケアに貢献できるリサーチマインドを持った総合診療医の育成にある。最終的には地域包括ケアが円滑に実施され、地域住民の安全・安心が確保されなければならない。したがって、評価指標として、①ライフイノベーションコンソーシアムに参加する医療、介護、在宅看護等の関連施設数及びコンソーシアムで扱う地域包括ケア相談等の件数並びに患者・住民及び地域包括ケアに関与する医療施設等の担当者の満足度。②各プログラム・コースの修了者の目標数と修了者数及び学位取得者数。また、③学会等研究発表数（論文数、学会発表回数）や大学間相互交流人数を評価することができる。評価指標のうち、最終アウトプットは総合診療医数であるが、地域が必要とする”総合診療医”は英国のGP（General Physician）を参考にすると住民2,000人に対して1人である。これを島根県（人口 70万人）及び兵庫県（560万人）に適応すると島根県350人、兵庫県2,800人の総合診療医が必要となり、これを当面の目標数とすることができる。一方、日本内科学会総合内科専門医及びプライマリ・ケア関連学会のプライマリ・ケア認定医並びに家庭医療専門医に相当すると考えられるが、取得までには卒業後6年程度が必要であり、これらの専門制度による認定医数や人口に対する認定医率が良い評価指標となることから、達成目標を前年度に掲げ、年度毎にコンソーシアム事務局及び事業事務局が集計を行い、事業評価委員会に報告し、次年度に向けた計画や方策に還元することとする。

④医学生・男女医師のキャリア教育・キャリア形成支援（※取組がない場合は記入不要）

名称等が若干異なるものの、基本的には3大学の地域医療関連講座・センター等が連携・協力して地域医療に貢献する総合診療医の育成に努めている。島根大学は卒業前には地域医療関連講座が協力して地域医療実習（夏・春季地域医療実習、地域医療病院実習、個別実習）やポリクリ、講座配属等で医学生を教育し、卒業後にはしまね地域医療支援センターを一般社団法人化するなどして地域医療に貢献するべく種々のプログラムを提供している。本事業では、主軸となる「総合診療医・内科総合医育成コース」とともに各能力修得のため「地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）」（地域包括ケア医療経済学講座（仮称））、「総合診療医指導者育成コース」（地域医療教育学講座）を整備し、インテンシブコースの「地域包括ケア連携人材養成コース」においては、学生にも開放する予定である。神戸大学では地域医療活性化センター及びD&N+ブラッシュアップセンターを活用した「総合診療医のための研究スキル・高度医療習得支援コース」、「なでしこ女性医師養成コース」並びにグローバルリーダー育成センターを活用した「グローバルリーダー養成コース」などを整備している。さらに、兵庫医科大学では、「都市型地域包括ケア人材養成コース」（地域包括ケア学講座）（仮称）及び「地域医療・包括ケア臨床研究コース」（総合診療科）が整備されている。これらはいずれも3大学で共有し、交流することによって研修可能としている。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の実施体制

推進拠点として事業責任者（島根大学）が調整するとともに、各大学にコーディネータを配置し、定期的に事業の進捗状況や問題点、課題等について議論する。また、各大学に事業事務部門として「地域包括ケアステーション」を新たに設置し、事業の事務的調整を行う。事業開始後には各関連団体との協議後、速やかにライフイノベーションコンソーシアムを設立し、これにより地域包括ケアを提供する関連団体との調整を図り、円滑な運営を行う。

(2) 連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

島根大学は「主導的**地域包括ケア人材養成拠点**」、神戸大学は「**グローバルリーダー養成拠点**」ならびに兵庫医科大学は「**都市型地域包括ケア人材養成拠点**」と位置づけ、地方と都会の大学の利点を生かした連携となっている。また、地域包括ケアでは各関連団体との調整が不可欠で、本事業終了後も継続すべきものであるため、**ライフイノベーションコンソーシアムを設立**し、円滑な協力・連携を図る。これに参加する自治体は、地域包括ケアに関する厚生行政上の役割を担当し、島根大学と兵庫医科大学は関連諸機関の調整を図る。また、地域医療機関や介護施設等は実

際に包括ケアを実践する現場として、医療人材が実習する場を提供するとともに地域包括ケアでの実際に関する知識、運営上の問題点や課題を中心とした研究資料の提供を行うことで、地域包括ケアに資する医療経営や臨床研究が可能となる。また、神戸大学の地域医療活性化センターの活用とともに3大学の診療科間交流もブラッシュアップに貢献できる体制となっている。

(3) 事業の評価体制

本事業に事業評価委員会を設置し、事業評価委員長のもと、各大学には学内及び関連施設から事業評価委員を選出する。各年度末には事業評価委員会を開催し、評価指標に基づき検証・評価を行う。また、当該年度の問題点や課題について議論し、フィードバックを行う。加えて、ライフイノベーションコンソーシアムの活動状況等を把握・評価するため、コンソーシアム内に運営委員会を設置し、各関連団体の代表者等が会に参画する。なお、年度毎にコンソーシアムの活動内容を評価し、事業評価委員会に報告することとする。

(4) 事業実施計画

25年度	<ul style="list-style-type: none"> ①9月 地域包括ケアステーションの設置・事務職員採用 ②9月 ライフイノベーションコンソーシアム設立準備開始・事務職員採用 ③10月 平成26年度からの大学院医学系研究科博士課程の募集開始 ④10月 3大学コーディネータキックオフ会議開催 ⑤10月 平成26年度の教育コース作成・合同講義選定開始 ⑥10月 講座新設のための準備（島根大学医学部地域包括ケア医療経済学講座（仮称）・兵庫医科大学地域包括ケア学講座（仮称）） ⑦11月 3大学コーディネータ会議開催 ⑧11月 地域型地域包括ケアに係る地域関連施設との連絡・調整 ⑨11月 地域医療施設および介護・福祉施設、関連団体訪問、調整 ⑩11月 地域基盤型臨床研究ワークショップの開催 ⑪12月 年度後半から可能なコースに限定し、プログラムを開始 ⑫12月 HPの開設 ⑬1月 3大学コーディネータ会議開催 ⑭2月 ライフイノベーションコンソーシアム設立 ⑮2月 地域包括ケアに関するFDを開催（3大学合同） ⑯3月 事業評価委員会の選定 ⑰3月 地域医療活性化センターに助教採用 ⑱随時 地域包括ケア実習（津和野共存病院、加藤病院） ⑲随時 本事業に関わる教職員・医師らが学会・研修に参加 ⑳随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の海外研修
26年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月 総合臨床教育センター特命准教授採用 ②4月 大学院医学系研究科修士課程の募集開始 ③5月 ライフイノベーションコンソーシアム連絡会議開催 ④6月 3大学コーディネータ会議開催 ⑤9月 3大学合同FD開催 ⑥12月 3大学コーディネータ会議開催 ⑦1月 ライフイノベーションコンソーシアム会議およびFD ⑧2月 3大学コーディネータ会議開催 ⑨3月 事業評価委員会の開催（年度報告・次年度企画確認） ⑩随時 地域包括ケア関連施設との連絡・調整 ⑪随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の大学間連携交流 ⑫随時 本事業に関わる教職員・医師らが学会・研修に参加 ⑬随時 津和野地区、川本地区および出雲地区の関連施設への研修・実習参加 ⑭随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の海外研修 ⑮随時 ライフイノベーションコンソーシアムの地域包括ケアに関する事業 ⑯随時 地域基盤型臨床研究ワークショップの開催

27年度	<p>①4月 大学院医学系研究科修士課程の募集開始 ②5月 ライフイノベーションコンソーシアム連絡会議開催 ③6月 3大学コーディネータ会議開催 ④9月 3大学合同FD開催 ⑤12月 3大学コーディネータ会議開催 ⑥1月 ライフイノベーションコンソーシアム会議およびFD ⑦2月 3大学コーディネータ会議開催 ⑧3月 事業評価委員会の開催（年度報告・次年度企画確認） ⑨随時 地域包括ケア関連施設との連絡・調整 ⑩随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の大学間連携交流 ⑪随時 本事業に関わる教職員・医師らが学会・研修に参加 ⑫随時 津和野地区、川本地区および出雲地区の関連施設への研修・実習参加 ⑬随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の海外研修 ⑭随時 ライフイノベーションコンソーシアムの地域包括ケアに関する事業 ⑮随時 地域基盤型臨床研究ワークショップの開催</p>
28年度	<p>①4月 大学院医学系研究科修士課程の募集開始 ②5月 ライフイノベーションコンソーシアム連絡会議開催 ③6月 3大学コーディネータ会議開催 ④9月 3大学合同FD開催 ⑤12月 3大学コーディネータ会議開催 ⑥1月 ライフイノベーションコンソーシアム会議およびFD ⑦2月 3大学コーディネータ会議開催 ⑧3月 事業評価委員会の開催（年度報告・次年度企画確認） ⑨随時 地域包括ケア関連施設との連絡・調整 ⑩随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の大学間連携交流 ⑪随時 本事業に関わる教職員・医師らが学会・研修に参加 ⑫随時 津和野地区、川本地区および出雲地区の関連施設への研修・実習参加 ⑬随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の海外研修 ⑭随時 ライフイノベーションコンソーシアムの地域包括ケアに関する事業 ⑮随時 地域基盤型臨床研究ワークショップの開催</p>
29年度	<p>①4月 大学院医学系研究科修士課程の募集開始 ②5月 ライフイノベーションコンソーシアム連絡会議開催 ③6月 3大学コーディネータ会議開催 ④9月 3大学合同FD開催 ⑤12月 3大学コーディネータ会議開催 ⑥1月 ライフイノベーションコンソーシアム会議およびFD ⑦2月 3大学コーディネータ会議開催 ⑧3月 事業評価委員会の開催（年度報告・最終評価） ⑨随時 地域包括ケア関連施設との連絡・調整 ⑩随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の大学間連携交流 ⑪随時 本事業に関わる教職員・医師らが学会・研修に参加 ⑫随時 津和野地区、川本地区および出雲地区の関連施設への研修・実習参加 ⑬随時 本事業のプログラム、コースへの参加者の海外研修 ⑭随時 ライフイノベーションコンソーシアムの地域包括ケアに関する事業 ⑮随時 地域基盤型臨床研究ワークショップの開催</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学医学部附属病院						
プログラム・コース名	総合診療医・内科総合医育成コース						
対象者	後期研修医 or 一般医師						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	急速に発展する地域高齢者社会にあつて、医療から在宅介護までの多様なケアニーズに対応でき、医療介護チームの一員として多職種とコミュニケーションがとれ、かつリーダーシップを発揮でき、医療等のスキルを備え、かつ現場の問題点や課題を把握し、解決する能力を有する医療人材を育成する。						
修了要件・履修方法	共通プログラム（2年）、選択プログラム（総合診療医プログラム、内科総合医プログラム）（1年）						
履修科目等	急速に発展する高齢者社会にあつて、急性期医療から慢性期、介護、療養、在宅看取りまでのケア（包括ケア）に対応できる総合的診療を実践できる医師（総合診療医・内科総合医）を育成する。島根大学医学部附属病院もしくは大田総合医育成センターでの研修を選択する。また、現場においては、多職種の医療従事者のコミュニケーションがもっとも重要であることから、研修に重点を置き、現地指導医や指導者のもと巡回診療（ケア）を実践して、包括ケアのノウハウを修得する。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域高齢者社会においては、医療から在宅までの切れ目のないケアを提供する包括ケアが求められ、これを担う医師が総合診療医もしくは内科総合医であり、総合的診療能力が求められる。その一方で、総合的診療能力を有する医師の定義が定まっていないうえに、地域包括ケアにおいてもスペシャリストが必要な場合もある。このため、本コースにおいては、当初から総合診療医を目指すコース（総合診療医プログラム）と総合診療的能力を修得しつつ、スペシャリストとしての専門医を目指すコース（内科総合医）を準備した。						
指導体制	地域医療関連講座（総合医療学講座、地域医療教育学講座、地域医療支援学講座）とともにクリニカルスキルアップセンター、卒後臨床研修センターならびに病院医学教育センターによるキャリア形成支援部門による指導体制で臨む。これに大田市立病院内の大田総合医育成センターが大きく関与する。また、島根県はわが国有数の高齢者先進県であることから、地域包括ケアに関する知識とスキルが不可欠であることから、地方型地域包括ケアの実践を学ぶとともにそれらの利点とともに問題点や課題を把握し、今後の医療・介護に貢献できる研究を実施することが可能である。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生						0
	後期研修医		5	5	5	5	20
	一般医師		3	3	3	3	12
	計	0	8	8	8	8	32

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学大学院医学系研究科						
プログラム・コース名	地域包括ケア人材養成コース(医療経営重点)(修士課程)						
対象者	後期研修医 or 一般医師						
修業年限(期間)	2年						
養成すべき人材像	地域包括ケアを実践する地域高齢者社会にあって、急速に変遷する医療および介護制度のもとで、患者の安全確保と医療の質の向上という最大の命題を課せられつつも、限られた医療資源の有効活用の観点から、効率的な病院経営を実践できる能力および包括ケアにおける課題を自ずから把握し解決する能力を有する医療人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目20単位、選択科目10単位合計30単位以上を履修し、学位論文または特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目案> 地域医療学、医療社会学、労働と生活の心理学、医療経営学、医療管理学、地域包括ケア実習I・II、地域包括ケア特別研究(20単位) <選択科目案> 老年医学、リハビリテーション医学、社会医学、医の倫理学、医療情報学(10単位)ほか						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	島根大学はその地域性から地域医療をミッションとし、医療から在宅までの包括ケアの実践が求められている。一方、都会とは異なる社会環境、医療環境により、島根県においては地域包括ケアにおけるマネジメントや病院経営等医療の効率性をも考慮できる医療人の育成が不可欠である。このため、地域住民の視点から地域包括ケアを管理する能力、および医療経営や厚生行政上の問題点を自ずから把握し、解決できる能力を身につけるコースを準備した。本コースは地方大学ではまれなコースである。						
指導体制	島根大学医学部に地域包括ケア医療経済学講座(仮称)を新設し、あらたに配置した教官により、本コース進学者の研究テーマの設定と研究遂行において指導と助言の支援体制を万全なものとする。また、本コースにおいては島根県の地域包括ケアの現場を視察し、医療保険財政上および病院経営上の問題点を把握し、大学以外の医療施設においても独立して研究を遂行できる指導体制で臨む。また、グローバルな視点を兼備させるため、海外実習などによる研鑽を積ませる。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生						0
	一般医師			1	1	1	3
	医療・福祉施設管理者等			1	1	1	3
	計	0	0	2	2	2	6

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学大学院医学系研究科						
プログラム・コース名	総合診療医指導者育成コース（博士課程）						
対象者	後期研修医 or 一般医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	研究マインドと卓越した指導力及び国際的視野を備えた、総合診療医指導者を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目12単位、選択必修科目3単位及び選択科目15単位の合計30単位以上を履修し、学位論文の審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目>12単位 医学総合研究特論I・II、総合診療学I・II <選択必修科目>3単位 基礎医科学、応用医科学、臨床医科学、臨床腫瘍学総論 <選択科目>15単位 医学・医療情報学I、老化I・II、地域医療学I・II、他50科目						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	生活習慣病のコホート研究又は加齢（aging）と動脈硬化、認知症やがんなど広範な研究の中からテーマを設定して研究を遂行し、博士号取得を目指す。これら研究活動を実施し、また、国内外の教育・医育機関での研修を行うことにより、人材育成のノウハウを修得し、地域の医療のフロンティアを拓くことができる卓越した学識と高度な指導・研究能力を身につけ、未来の総合診療を担う若手医師に対する指導者の育成を目的とする。						
指導体制	地域医療教育学講座を中心に、本コース進学者の研究テーマの設定及び研究の遂行のための指導と支援を実施する。定期的に研究発表会を開催し、研究の方向性を明確にするとともに、研究のレベルアップを図る。当コースでは、地域医療機関に在籍する医師も受け入れて育成し、将来、育成した指導者を核とする大学病院・地域連携型の研究体制を構築する。研究を推進するための地域医療病院との組織化を図り、地域から研究を発信できる体制を整備する。更に、大学病院と地域医療支援センター・地域医療機関・自治体との連携を強化し、総合診療医として活躍する人材が安心してキャリアを積める教育指導体制の構築を図る。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生						0
	後期研修医		2	2	2	2	8
	一般医師		1	1	1	1	4
計	0	3	3	3	3	12	

教育プログラム・コースの概要

大学名等	島根大学医学部附属病院						
プログラム・コース名	地域包括ケア連携人材養成コース(インテンシブ)						
対象者	医療従事者 or 一部医学生(5、6年生)に開放						
修業年限(期間)	1年						
養成すべき人材像	急速に発展する地域高齢者社会にあつて、医療から在宅介護までの地域包括ケアの水準の向上を目指し、現場において医療介護チームの一員として多職種とコミュニケーションがとれ、地域包括ケアに関する知識・基本技術を修得し、医療倫理に基づいた地域包括ケアが実践できる医師およびメディカルスタッフを養成する。						
修了要件・履修方法	受講回数が15回のうち、10回以上(講義形式:7回以上、実習形式3回以上)を受講すること						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院講義:地域医療学、医療社会学、社会医学、老年医学、リハビリテーション医学 ・地域包括ケア実習(地方型:津和野地区、川本地区、出雲地区、ささやま地区、都市型:西宮地区) ・3大学合同セミナー ・各基幹病院を結んで行う定期カンファレンス ・各種地域包括ケア研究会、研修会、講演会など 						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	医療から在宅までの切れ目のないケアを提供する包括ケアにおいては、ケア提供者である多職種の医療従事者のコミュニケーションがもっとも重要であることから、医師ばかりでなく、看護師、理学療法士、ソーシャルワーカー等による講義、演習を準備した。また、実習に重点を置き、現地指導医や指導者のもと巡回診療自動車等を活用して、島根大学はわが国の高齢者先進県である島根県の特徴を生かし、中山間部にある包括ケアを提供する医療・介護施設群で実体験による実習とともに兵庫医科大学による都市部での包括ケアの実習を行う。						
指導体制	地域包括ケアでは、多職種の医療従事者により、地域住民個人に対し、医療から在宅介護まで切れ目なく提供される。このため、各職種の関連団体の連携協力が不可欠である。そこで、医療施設、県および市町村、県医師会および各地区医師会、県看護協会および各支部など関連団体による地域包括ケアコンソーシアムを設立し、大学とともに各関連団体による講義や実習を行う予定である。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生		5	5	5	5	20
	大学院生						0
	後期研修医		3	3	3	3	12
	医療従事者		5	5	5	5	20
	計	0	13	13	13	13	52

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学医学部						
プログラム・コース名	グローバルリーダー人材養成コース						
対象者	総合診療医を目指す医学生及び医師						
修業年限（期間）	1ヶ月、3ヶ月（短期）、6ヶ月、1年（長期）						
養成すべき人材像	国際的な医療活動の研修を通し、高度な知識と広汎な経験に基づく総合医療を実践し、過疎地医療などに大きな意欲を持ち、本邦においてリーダーシップを発揮できる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	基本的な総合診療医養成コースに対し、オプション的なコースを設定。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学と連携した総合診療医基本コースを履修 ・目指す専門領域に特化したコースをオプションとして追加 ・グローバルリーダー育成センター及び総合臨床教育センターが設定するコース（短期、長期）を履修 ・海外での実習を行う ・本学設定のセミナー、研修会、講演会への出席 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	神戸大学は国際都市である利点を活かし、欧米諸国との連携はもちろんのこと、インドネシアやバングラデシュといった東南アジアとの国々とも積極的に交流を行ってきた。学生や医師に途上国での研修を行わせる素地は整っており、本コースでは学生・若手医師を対象とし、積極的に海外経験を積ませることによって、国際感覚にあふれた総合診療医を養成しようというものである。						
指導体制	本コースは、総合診療医を目指す医師に対して、オプション的なコースを提供するもので、担当する部門の中心は総合臨床教育センターおよびグローバルリーダー育成センターであり、学生、医師両者への広汎なカリキュラムの提供を行う。そのほか、総合診療医育成に関わる総合診療科などの専門的キャリア形成部門が指導にあたる。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生		3	3	3	3	12
	後期研修医		3	3	3	3	12
	医師		3	3	3	3	12
	計	0	9	9	9	9	36

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学医学部						
プログラム・コース名	なでしこ女性医師養成コース						
対象者	総合診療医を目指し、現場復帰を希望する女性医師						
修業年限（期間）	6ヶ月						
養成すべき人材像	結婚、出産等により現場を離れた女性医師が現場復帰を目指して、本コースの再教育により当該医師の希望する診療科で診療ができる医師を育成する。						
修了要件・履修方法	D&Nプラスブラッシュアップセンターの設定する、基本的な医師復帰再生コースおよび希望診療科復帰支援コースを履修。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学と連携した産休・育児休暇中の教育コースを提供 ・休暇中に負担の少ない部門での研修を斡旋 ・医師復帰再生基本コースを履修 ・本学設定のセミナー、研修会、講演会への出席 						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	神戸大学には以前から女性医師の復帰を支援する「D&Nプラスブラッシュアップセンター」が設置され、活動を行ってきた。これは医師ばかりでなく、看護師や薬剤師など医療従事者であれば利用できる部門で女性医療スタッフの支援を行っている。これをさらに発展させ、女性医師への遠隔教育システムなど新たな手法を導入する。						
指導体制	本コースは、総合診療医を目指す医師に対して、オプション的なコースを提供するもので、担当する部門はD&Nプラスブラッシュアップセンターであり、そのほか、総合診療医育成に関わる総合診療科や、総合臨床教育センターなどキャリア形成部門が指導にあたる。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生		3	3	3	3	12
	後期研修医		3	3	3	3	12
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	8	8	8	8	32

教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学医学部						
プログラム・コース名	総合診療医のための研究スキル・高度医療習得支援コース						
対象者	総合診療医を目指す医師のうち、研究や高度医療の習得をキャリアアップのために希望する医師						
修業年限（期間）	6ヶ月～1年						
養成すべき人材像	近未来に都市部にも押し寄せる高齢化の波に対して、リサーチマインドを持ち、先端医療にも対応可能な、より高度な総合診療を具現化できる総合医を育成し、本邦の医療の高度化に貢献する。						
修了要件・履修方法	総合臨床教育センターが斡旋し、各臨床・基礎講座等の研究・研修コースを履修						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学と連携した基本コースを履修 ・目指す専門領域に特化した研究コースを履修 ・目指す専門領域に長ける他大学診療科（島根大学、兵庫医科大学）への研修の斡旋 ・海外での研究も支援する ・本学設定のセミナー、研修会、講演会への出席 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	神戸大学は以前から研究大学として高度な基礎・臨床研究を行ってきた。これに加え、地域医療活性化センターが新たに設置され、より高度な医師のスキルアップを可能としている。同センターには既存の大学にはない設備も整備され、神戸大学ばかりでなく他の医療施設も利用できるメリットがある。						
指導体制	本コースは、総合診療医を目指す医師に対して、スキルアップを目的としたコースを提供するもので、担当する部門は総合臨床教育センターである。総合診療医育成部門の基本コース（3ヶ月）を履修したものに対して、希望する専門領域に関する診療科や研究部門でのコース履修を調整する。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生		3	3	3	3	12
	後期研修医		3	3	3	3	12
	その他医師		3	3	3	3	12
	計	0	9	9	9	9	36

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学病院						
プログラム・コース名	都市型地域包括ケア人材養成コース（インテンシブ）						
対象者	総合診療医を目指す後期研修医 or その他医師（女性医師復帰、Iターン・Uターン希望医師を含む）or 医学生（5、6年生）or 医療従事者						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	近未来に到来する地域高齢者社会にあつて、医療から在宅介護までの地域包括ケアの質の向上を目指し、現場において医療介護チームの一員として多職種とのコミュニケーション能力、地域包括ケアに関する知識・スキルを修得し、医療倫理に基づいた地域包括ケアが実践できる医師および医療従事者を養成する。						
修了要件・履修方法	受講回数が15回のうち、10回以上（講義形式：7回以上、実習形式3回以上）を受講すること						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院講義：地域総合医療学、総合診療科、神経・脳卒中科の担当する講義 ・地域包括ケア実習（都市型：西宮地区、地方型：ささやま地区、島根大学関連地区） ・3大学合同セミナー ・各基幹病院を結んで行う定期カンファレンス ・各種地域包括ケア研究会、研修会、講演会など 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	医療から在宅までの切れ目のないケアを提供する包括ケアにおいては、ケア提供者である多職種の医療従事者のコミュニケーションがもっとも重要であることから、医師ばかりでなく、看護師、理学療法士、介護福祉士等による講義、演習を整備した。また、包括ケアにおいては実体験が必須であることから、実習に重点を置き、現地指導者のもと巡回自動車等を活用するなどして、ささやま地区および高齢者先進県にある島根大学関連の医療・介護施設群および系列大学の兵庫医療大学での実体験による実習を行う。						
指導体制	地域包括ケアでは、地域住民に対し、多職種の医療従事者により、医療から在宅介護・看護・看取りまで切れ目なく提供されることから、各関連団体の連携協力が必須である。そこで、兵庫県県および西宮市、県および市医師会、県看護協会および各支部など関連団体による地域包括ケアコンソーシアムを設立し、大学とともに各関連団体による講義や実習を整備している。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生		4	4	4	4	16
	大学院生						0
	後期研修医 一般医師		3	3	3	3	12
	医療従事者		3	3	3	3	12
	計	0	10	10	10	10	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学病院						
プログラム・コース名	総合診療医基本コース						
対象者	後期研修医 or 一般医師						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	地域高齢者社会にあつて、医療から在宅介護までの多様なケアニーズに対応でき、医療介護チームの一員として多職種とコミュニケーションがとれ、かつリーダーシップを発揮でき、医療等のスキルを備え、かつ現場の問題点や課題を把握し、解決する能力を有する医療人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修診療科（総合診療医プログラム）と選択科目で構成される。現場においては、多職種の医療従事者のコミュニケーションがもっとも重要であることから、研修に重点を置き、現地指導医や指導者のもと巡回診療（ケア）を実践して、包括ケアのノウハウを修得する。						
履修科目等	<必修診療科> 兵庫医科大学総合診療科（1年） ささやま医療センター・ささやま老人保健施設（6ヶ月） 地域医療機関（1年）：市立池田病院 総合診療医プログラム 整形外科（3ヶ月）、救急科（3ヶ月）小児科（3カ月）、および仁明会病院 精神科（3か月）、 <選択科目> 自由選択（6か月）（兵庫医科大学病院の全診療科から選択、ローテーション可） 兵庫医科大学認知症疾患センター（3ヶ月）（随時、隔週で鑑別診断を経験）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	急性期医療から慢性期、介護、療養、在宅看取りまでのケア（包括ケア）に対応できる総合的診療能力を養成できる教育内容になっている。兵庫県下において篠山市はすでに高齢者先進地域であり、地域包括ケアに関する知識とスキルが学ぶ場として最適である。その一方で、総合的診療能力を有する医師の定義が定まっていないうえに、地域包括ケアにおいてもスペシャリストが必要な場合もある。このため、総合診療医プログラムで総合診療的能力を修得しつつ、スペシャリストとしての専門医を目指す研修者に配慮して、選択科目を準備した。						
指導体制	芳川浩男 卒後臨床研修センター長（総括、施設間調整） 武田正中 内科学（神経・脳卒中科）准教授（認知症疾患の鑑別診断を指導） 森本剛 総合診療科臨床教授（総合診療科後期研修プログラム） 作間未織 教養部講師（臨床研究ワークショップ） 福田能啓 ささやま医療センター院長・老健施設長 今井康陽 市立池田病院院長 加藤力敬 仁明会病院院長（認知症患者BPSD対応の研修） 土山雅人 つちやま内科クリニック（西宮）（外来訪問診療を指導）						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	大学院生						0
	後期研修医		5	5	5	5	20
	一般医師		3	3	3	3	12
	計	0	8	8	8	8	32

教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
プログラム・コース名	地域医療・包括ケア臨床研究コース（博士課程）						
対象者	初期研修医（2年目）、後期研修医、一般医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	研究マインドと卓越した指導力及び国際的視野を備え、地域医療のリーダーとして若手医師の指導・育成を牽引する地域医療指導者を養成する。						
修了要件・履修方法	講義6単位、演習6単位、臨床研究16単位、特別講義4単位合計30単位以上を最初の2年間で履修し、3年目以降に学位論文の作成、審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	地域総合医療学専攻においては、講義（チーム医療における家庭医の地域貢献について）、演習（在宅地域ネットワークの構築）、臨床研究（高齢者の栄養管理、環境因子と生体反応）。総合診療内科学専攻においては、講義（プライマリケア、病診・病病連携のありかた）、演習（認知症性疾患）、臨床研究（common symptoms&diseaseの診断・治療および外来実習・病棟実習、臨床推論）。特別講義は随時開催。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	生活習慣病のコホート研究又は加齢（aging）と動脈硬化、認知症やがんなど広範な研究ネットワークの研究の中からテーマを設定して研究を遂行し、博士号取得を目指す。具体的には臨床研究ワークショップを地域医療の場で実施し、地域に根ざした臨床的課題を解決する臨床研究手法を学習し、地域医療のフロンティアを拓くことができる卓越した学識と高度な指導・研究能力を身につけ、未来の地域医療を担う若手医師の育成を担うことを目的とする。指導者の養成とともに、研修・研究環境を整備し、地域医療を担う人材の確保・定着に資する。						
指導体制	総合診療科、地域包括ケア講座を中心に、本コース進学者の研究テーマの設定及び研究の遂行のための指導と支援を実施する。随時、研究発表会を開催し、目標設定を図り、研究のレベルアップを図り、論文の投稿及び受理のための指導を行う。当コース進学者の在籍する地域医療病院を中心に、大学と地域医療機関との研究指導体制を構築するための調整を実施し、将来、地域から研究を発信できる体制の整備を推進する。また、海外研修を企画し、更に、大学・地域医療機関・自治体との連携を強化し、地域で活躍する人材が安心してキャリアを積める教育指導体制の構築を図るとともに、本コース進学者の基本的情報、評価及び地域枠等学生及びその卒業生の基本情報等の登録評価システムを構築する。						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生						0
	初期研修医（2年目）		1	1	1	1	4
	後期研修医		2	2	2	2	8
	一般医師		1	1	1	1	4
	計	0	4	4	4	4	16

” 地方と都会の大学連携ライフイノベーション “

大学を中心としたネットワーク構築

3大学が連携し、相互補完(人材交流)・人材育成体制の構築



地域包括ケアリーダー

求められる総合診療医像

Requirements for General Physician

- リーダーシップ
Leadership
- 多様なケアニーズへの対応能力
Capability to deal with various care needs
- リサーチマインド
Mind for Research

島根大学

高齢化先進県
地域医療

主導的・地域包括ケア人材
指導者養成拠点

地方型地域包括ケアシステムの構築

地方

都会で先進・先端医療を学び
近未来の地域医療にフィードバック

都会

高齢化先進県で地域医療を学び
近未来の都市医療にフィードバック

神戸大学

近未来高齢化県
先進医療先端研究

グローバルリーダー養成拠点

研究推進・国際医療人材養成
システムの構築

兵庫医大

近未来高齢化県
先進医療先端研究

都市型地域包括ケア人材
養成拠点

都市型地域包括ケアシステムの構築

基本コース

● 総合診療医育成コース

選択コース

- 地域包括ケアリーダー養成コース
- 地域医療の研究者養成コース
- グローバルリーダー養成コース

リサーチマインドを持った総合診療医

Shimane University
Hyogo College of Medicine
Kobe University
The university cooperation
life innovation of rural areas and a city